

授業科目名	文化施設運営論	担当教員	尾西 教彰 近藤 のぞみ
必修の区分	必修		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	2年 第1クォーター		
講義内容	<p>この科目は、アートマネジャーの最も大切な職能の一つでもある、文化施設の企画と管理運営のスキル、舞台機構などの技術に関する知識、法規などの制度面、経営面、ホスピタリティなどの諸側面から論じ、実践に出るための土台を養成する。</p> <p>また、劇場や音楽堂等の文化施設が、地域の文化拠点および社会基盤として果たすべき役割、今日的課題、将来の可能性について、劇場や創造団体のプロデューサー、アーティストといった多様な視点から、グループワークなども取り入れながら具体的に考え、議論する。</p>		
到達目標	<p>①文化施設の歴史、運営の仕組みを説明できる。 ②文化施設内の仕事を理解し、専門知識を得る。 ③文化施設の社会的役割について、議論できる。 ④事業企画の立て方について理解し、企画することができる。 ⑤文化施設の機構や設備、活用法について説明できる。</p>		
授業計画	<p>■組織と運営、維持管理業務について</p> <p>①文化施設という存在 —使命と役割— (尾西) ②文化施設の歩みと歴史 —劇場は何のために必要か— (尾西) ③文化施設運営の基本 —業務、組織、財源— (尾西) ◎ゲスト/栗原良明 [阪急電鉄(株)創遊事業本部歌劇事業部長] 「劇場運営の実際～宝塚大劇場を例に～」(仮題) ④劇場空間 —機構と設備— (尾西) ⑤施設の維持管理 —法令順守、安全・リスク管理— (尾西) ⑥劇場の管理運営～舞台技術の視点から～ (尾西) ◎ゲスト/関谷潔司 [兵庫県立芸術文化センター舞台技術部長] 「劇場の管理運営～舞台技術の視点から～」(仮題)</p> <p>■事業企画を考える</p> <p>⑦劇場の企画運営 (近藤) ◎ゲスト/福島寿史 (日生劇場) ⑧劇場の企画と指定管理者制度 (近藤) ⑨劇場の事業計画 (近藤) ⑩劇場の役割 (近藤) ⑪劇場の社会包摂 (近藤)</p>		

	⑫全体のまとめ ー文化施設の役割と課題ー (尾西、近藤)
事前・事後 学習	事前リサーチや、授業中に配布する資料等による振り返りが求められる。
テキスト	特になし。
参考文献	適宜指示する。
成績評価 の基準	授業への取り組み (40%)、レポート・発表 (30%)、テスト (30%)
履修上の注意 履修要件	
実践的教育	芸術文化分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。
備考欄	グループワーク及びプレゼンテーションがあります。また試験期間に試験があります。